

マスコミ各位

令和2年11月12日（木）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、岡野

電 話：098-866-2215

RSウイルス感染症患者が増えています ～乳幼児のいる家庭や保育所、学校等ではご注意を！！～

1 概要

現在、本県ではRSウイルスによる感染症患者が増加しています。

RSウイルス感染症とは、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が感染するとされています。生涯にわたり何度でも感染と発病を繰り返しますが、生後数週から数カ月の期間にもっとも重症な症状を引き起こす場合がありますので、乳幼児は特に注意が必要です。

本県の第45週（11月2日～11月8日）の1医療機関あたりの報告数は5.09人（定点医療機関34カ所、報告数173人）となり、ここ数週間で急激に増加しております。

なお、第45週における保健所別定点あたり患者報告数は、北部保健所が9.00人で最も多く、次いで中部保健所7.58人、南部保健所3.75人及び那覇市保健所3.43人で本島を中心に報告が多くなっております。一方、宮古保健所及び八重山保健所では、現在のところ報告は少ないものの今後注意が必要です。

これから気温が徐々に低下し換気が不十分になりがちです。また、忘年会などで外出する機会も増えるため、特に、乳幼児がいるご家庭や保育園等では感染がさらに拡大する可能性がありますので注意が必要です。

RSウイルス感染症も新型コロナウイルス感染症も、感染予防策は「3密を避ける」、「手洗い」や「マスク着用」が重要となりますので、これらの呼吸器感染症対策の周知について、あらためてご協力いただきますようお願いいたします。また、県民の皆様、学校、保育園等関係者の皆様におかれましては、引き続き感染予防策を徹底していただきますようお願いいたします。

2 RSウイルス感染症：5類感染症【定点把握】

RSウイルスを起因病原体とし、主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他にはウイルスに汚染された手指や物品を介した接触により感染する。年齢を問わず繰り返し再感染する。

臨床症状：成人では風邪様症状を起こす程度であるが、生後数週から数カ月の乳幼児、基礎疾患のある児、または高齢者が感染した場合は、肺炎などの下気道疾患等、重篤な症状を起こす危険性が高いため、特に注意が必要である。

潜伏期：2～8日

治療：対症療法

3 RSウイルス感染症の流行状況

RSウイルス感染症患者情報は、感染症発生動向調査事業において県内の小児科34定点医療機関の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約3,000カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

定点当たりの患者報告数（直近の7週間）

	週	39週 9/21 ～9/27	40週 9/28 ～10/4	41週 10/5 ～10/11	42週 10/12 ～10/18	43週 10/19 ～10/25	44週 10/26 ～11/1	45週 11/2 ～11/8
県	患者数	48	48	65	90	133	180	173
	定点当	1.41	1.41	1.91	2.65	3.91	5.29	5.09
全国	患者数	205	209	308	284	305	383	346
	定点当	0.07	0.07	0.10	0.09	0.10	0.12	0.11

8 参考

- 厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

- 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」

<定点把握 18疾患のグラフ・データ>に、RSウイルス感染症とインフルエンザの情報を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>